

2021年8月29日（日）聖霊降臨後第14主日

銀座教会 家庭礼拝

礼拝招詞「恵み深い主に感謝せよ慈しみはどこしえに」と主に贖われた人々は唱えよ。
主は苦しめる者の手から彼らを贖い国々の中から集めてくださった」

詩編107編1～3節

主の祈り

交読詩編 詩編71編15～17節

わたしの口は恵みの御業を

御救いを絶えることなく語り

なお、決して語り尽くすことはできません。

しかし主よ、わたしの主よ

わたしは力を奮い起こして進みいで

ひたすら恵みの御業を唱えましょう。

神よ、わたしの若いときから

あなた御自身が常に教えてくださるので

今に至るまでわたしは

驚くべき御業を語り伝えて来ました。

使徒信条

讚美歌 79 ほめたたえよつくりぬしを

聖書

マルコによる福音書6章45～52節

45 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸のベトサイダへ先に行かせ、その間に御自分は群衆を解散させられた。46 群衆と別れてから、祈るために山へ行かれた。47 夕方になると、舟は湖の真ん中に出ていたが、イエスだけは陸地におられた。48 ところが、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜が明けるころ、湖の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとされた。49 弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。50 皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。51 イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは心の中で非常に驚いた。52 パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである。

牧会祈祷

天の父なる神さま。8月最後の主日を迎え、主の御前に立たせていただき感謝いたします。平和を願いつつ8月を過ごしました。戦争により多くの大切な命が犠牲となったことを忘れることなく過ごしました。自己中心に陥り、隣人のこと、後先のことを考えずに行動する私たちの罪深さを御前に懺悔いたします。平和を願いつつ、神を愛し隣人を愛するあなたのご命令に聞き従う者へとお導きください。病と闘う一人一人をお支えください。孤独と不安の中にある隣人の友となることが出来ますようにお導きください。子供たちの夏休みが終わろうとしています。一人一人が成長しています。霊的な成長が与えられ、健やかに歩めますように。感染者はじめ命を支えるために働

く医療従事者を御手の内お支えください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

説教 「恐れることはない」

牧師 高橋 潤

マルコによる福音書を読み進めています。本日読みます聖句の直前には、主イエスが弟子たちに「しばらく休みなさい」と休息を与えようとしたことが記されています。しかし、飼い主がいない羊のような群衆を深く憐れみ、休息を返上して「いろいろと教え始めた」ことが記されています。主イエスが教えて時間がたち、皆お腹がすいてきました。主イエスは弟子たちに対して「あなた方が彼らに食べ物を与えなさい」と命じられました。このご命令のまえにたじろぐ弟子たちがいます。主イエスは、五つのパンと二匹の魚を手に取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちに配らせました。魚も皆に分配しました。主イエスの教えと祈りを通して五千人以上の者が空腹を満たしました。弟子たちは、主イエスの祈りと御業に包まれました。

本日与えられた聖書の御言葉は、ガリラヤ湖が舞台です。弟子たちはガリラヤ湖を舟で向こう岸へ向かって進んでいます。しかし、逆風によって夜明けまでこぎ悩んでいました。夜明け頃、主イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行き、そばを通り過ぎようとしたと記されています。弟子たちは湖上を歩く主イエスを見て、幽霊だと思い、大声で叫びました。舟に乗っている弟子たちはおびえていました。そして、通り過ぎようとした主イエスの声を聞きます。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」主イエスは湖上から弟子たちの舟に乗り込まれました。そして、52節、パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからと記されています。

パンの出来事を理解するとはどういうことでしょうか。私たちもパンの出来事を理解できずに弟子たちと同じように信仰生活をしているのではないかと心配になります。パンの出来事を理解して信仰生活を送りたいと思います。パンの出来事を理解できないと心が鈍くなったままだからです。

「鈍い」とは、鋭いの反対語です。動きがのろいこと、反応が遅いこと、鈍感、無神経という意味があります。心が鈍いとは、心の反応が遅いと指摘されているのです。逆風で一昼夜舟をこいでもこいでも、進まないのです。この舟には主イエスは乗っていません。強風吹き荒れる湖の湖上を歩く主イエスを見て幽霊だと思い込み、主イエスだとわからずにおびえる弟子たちに同情します。仕方ないと思います。もし私が弟子たちと同舟していたら、湖上を歩く人が主イエスのお姿であると確認できたかどうか、主イエスを見て安心したかどうかと問われれば、声を出しておびえたに違いないと答えざるを得ません。せいぜい、硬直して呆然とするのが関の山ではないかと思えます。皆さんはいかがでしょうか。湖上を歩く主イエス、強風の前になすすべのない舟から主イエスを見て安心出来ると言える人はいるのでしょうか。

心が鈍いという言葉で主イエスは私たちに何を告げているのでしょうか。私たちは、どんなに頑張っても鈍い心のままです、と開き直ってはならないと思います。主イエスの御声を聞いた者として、鈍い心を少しでも研ぎ澄ませて鋭い心へ向かいたいと思

うのです。そのためにも、鈍い心とはどういう心なのか理解したいと思うのです。

ガリラヤ湖において逆風に悩まされる舟の姿は、教会の姿を現しています。代々の教会は、嵐の中の舟として自らを見てきました。時代の嵐の中で、代々の教会は鈍い心を経験してきました。戦時中の教会は、心を鈍くしなければ、乗り越えられなかったとも言えるのではないかと思います。時の国家権力に対して、鋭い心で反応し、殉教の死を遂げた人々も少なくありません。教会の将来においても、鈍い心の方がよいと考えてしまいそうです。しかし、そうではないと思うのです。

45 節に記されているとおり、「イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ」たのです。私たちの信仰生活は、主イエスが弟子たちに舟に乗ることを強いたように、主イエスのご命令からはじまっているのです。教会が嵐を経験する時、私たち人間の未熟さだけでなく、主が強いて舟に乗せたことを第一に受け止めたいと思います。混乱する教会から逃れなければならない場合もあります。別の舟に乗り換えることもあるでしょう。しかし、主イエスは教会という舟に私たちを強いて乗せるお方であるということです。教会にとどまることをしっかり受け止めたいと思うのです。

次に、主イエスのご計画は、その舟に乗船しないことです。マルコによる福音書 4 章 35 節以下では、ガリラヤ湖で突風によって浸水を経験した舟には主イエスが乗船していました。しかし、6 章の本日の聖句では、主イエスは舟に乗っていないのです。主イエスは舟の中には乗らず、あえて弟子たちだけにしたのです。

代々の教会は、主イエス不在の経験を通して学びました。主イエスが不在であるゆえに、人間中心になり、時の指導者の声によって揺さぶられました。教会が経験した紛争の時、目に見えない主イエスを見いだす信仰訓練の時であったと思います。

鈍い心とは、一人一人の信仰者の心のあり方という側面と同時に心が鈍くなり病む教会の側面があると思います。50 節の「わたしだ」は、私たちの鈍い心を目覚めさせる言葉です。「わたしだ」とは、飼い主のいない羊のような群衆に教えていた主イエス、パンと魚を祝福して祈った主イエス、五千人以上の人々が満たされた時に共におられた救い主主イエスを想起させる言葉です。主イエスはキリストであると信仰を告白する教会が鈍い心から主イエスを鮮やかに想起し、主イエスを見るのです。

このお方が見えなくなり、幽霊に見えてしまうのが鈍い心です。救い主が見えない心が鈍い心です。主イエスに強いられて、愛のご命令で乗った舟であることを忘れることも鈍い心です。そして、舟の中で主イエスが不在であるとおびえる事も鈍い心なのです。

弟子たちを強いて舟に乗せた主イエスは、どこにおられるのでしょうか。主イエスは群衆を解散させて、46 節、祈るために山へ行かれたと記されています。舟に乗せられた弟子たちは、祈るために山に行くことを伝えられていたかどうかわかりません。しかし、私たちは、この御言葉を通して、鈍い心を研ぎ澄ませる事が出来るのです。それは、激しい嵐や風によってこぎ進めることが出来ない時、叫びたくなるとき、命の危険を感じる時、主イエスを発見することが出来るのです。弟子たちのために祈る主イエスを思い起こすことです。ひとたび、主イエスが幽霊に見えてしまうかもし

れません。おびえて大声を出してしまうかもしれません。しかし、その後でもよいのです。主イエスは私たちが強風に遭う前から山でわたしのために祈っておられることを思い出すのです。祈る主イエスを思い起こすことが信仰です。私たちの教会のために祈っておられることは、鈍い心では気付けませんし、思い起こすことが出来ません。しかし、山で祈る主イエスのお姿を思い起こすことによって、教会はキリストの教会になるのです。キリストが頭である教会は鈍い心から研ぎ澄まされた心へ導かれるのです。これが教会の信仰です。私たちの信仰の中心に祈る主イエスのお姿を刻み込みたいと願います。

子供の頃、父の書斎に掛けられていた祈るキリストの聖画がありました。大きな岩の上にキリストが両手を組んで置き、天を見上げて跪き祈る姿勢が描かれていました。主イエスは12弟子を選ぶときも徹夜の祈りをささげました。十字架に進む直前まで祈られました。本日の聖句においても山で祈られています。私たちも教会も私たちの力ではなくキリストの祈りに支えられているのです。私たちの鈍い心は、祈るキリストを思い起こすたびに研ぎ澄まされていくのです。現代の教会において、私たちがどこにいても、祈るキリストを思い起こすことによって、霊的に支えられて、鈍い心から主を呼ぶ心へと研ぎ澄まされていくのです。

ルカによる福音書 22章 32節「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」御言葉に感謝して祈りましょう。

天の父なる神さま。私たちがおびえるとき、鈍い心で自分の事しか考えられないとき、祈る主イエスのお姿を思い起こさせてください。キリストが祈っておられることを教会の土台として、前進できますようにお導きください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 病を負っている方々とそのご家族に主の癒やしを祈りましょう

命の危機、不安と孤独に直面している方々に主の恵みを祈りましょう

医療従事者の健康が守られ使命が支えられますように祈りましょう

讃美歌 280 わが身ののぞみは

献 金

頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン